



異彩を放つ医系専門予備校のメデイカルラボ

偏差値40の生徒を 医学部へ導く指導力

フリーライター・平井基一

名 古屋駅前のオフィスビルに、大手ひしめく予備校業界の中でも異彩を放つ企業がある。医系専門予備校「メデイカルラボ」を全国15都市で展開する株式会社キョーイクだ。同社は1976年、小・中学生対象の学習塾として誕生。その後、95年には、当時画期的だった週3日制の大学受験予備校を立ち上げ

る。ピーク時には現役生・浪人生合わせて約1800名の生徒を集めたが、大手予備校による生徒獲得合戦に巻き込まれ、2000年以降は売り上げ・生徒数ともに頭打ちに。そんな同社が06年、起死回生の一手として立ち上げたのが、医系専門予備校「メデイカルラボ」だ。

近年、少子化の影響により、大学

名だった合格者は、14年には289名を数えるまでになった。

医学部受験の特性つかみ 個々の戦略を練り上げる

メデイカルラボの特色は、医学部に特化した指導体制にある。中でも大手予備校と一線を画すのが、入学時に偏差値での足切りを設定していない点だ。「中には偏差値40未満の高校生や40歳を越える社会人もいます」(メデイカルラボ・可児良友氏)。他の予備校では夢かなわず、「最後の砦」としてメデイカルラボの門をたたく生徒も少なくない。それでも同校では、高い合格率を誇るといって驚きだ。

では、生徒たちをどうやって合格に導くのか。その秘密は、メデイカルラボが他の予備校に先駆けて採用したマンツーマン授業にある。今では個別指導をうたう予備校も増えたが、06年の開設当初、医学部受験の個別指導は珍しかった。

マンツーマン授業が威力を発揮するのは、「医学部受験の特殊性」に理由がある。たとえば、英語の問題には、医学系の論文が出題されることが多い。生物や化学では、高校では習わないホルモンについて問う問題が出る。さらに大学ごとの独自色が強いのも特徴だ。「模試でA判定

撮影：平井基一



完全個別主義を掲げ、1対1のプライベート授業を実施

受験のマーケットは年々縮小が進む。そんな中、医学部の志願者は増加傾向が続く。とりわけ私大の医学部では、志願者数の過去最高記録が毎年更新されるほどの盛況ぶりだ。医学部受験に限れば、「少子化もどこ吹く風」といった状況なのである。

メデイカルラボでも、開設以来、生徒数は着実に増え続けている。医学部の最終合格者も増加、07年に14

撮影：平井基一



メデイカルラボ本部教務統括の可児良友氏

を受けた子が合格しないことも多い。その一方で、E判定の生徒でも対策次第では十分に合格を狙えます」(可児氏)。集団の授業では、生徒一人ひとりの細かな情報をつかむのは難しい。一方、マンツーマン授業であれば、各教科の得意分野、不得意分野を把握でき、そこから対策を練ることができる。「重要なのは、合格への戦略を一緒に練ること。得意分野を把握したうえで、それを活かせる大学を選べば、合格をつかむ確率も高まります」(同)。

メデイカルラボでは、「全国医学部最新入試要項」を毎年発行するほか、全国15教室のネットワークを生かし、受験に関する豊富な情報を蓄積しているのも強みだ。他の予備校にはない圧倒的な情報量で、医学部受験という戦いを制す。メデイカルラボは、医師を夢見る学生たちの「頼れる戦略参謀」として存在感を増している。